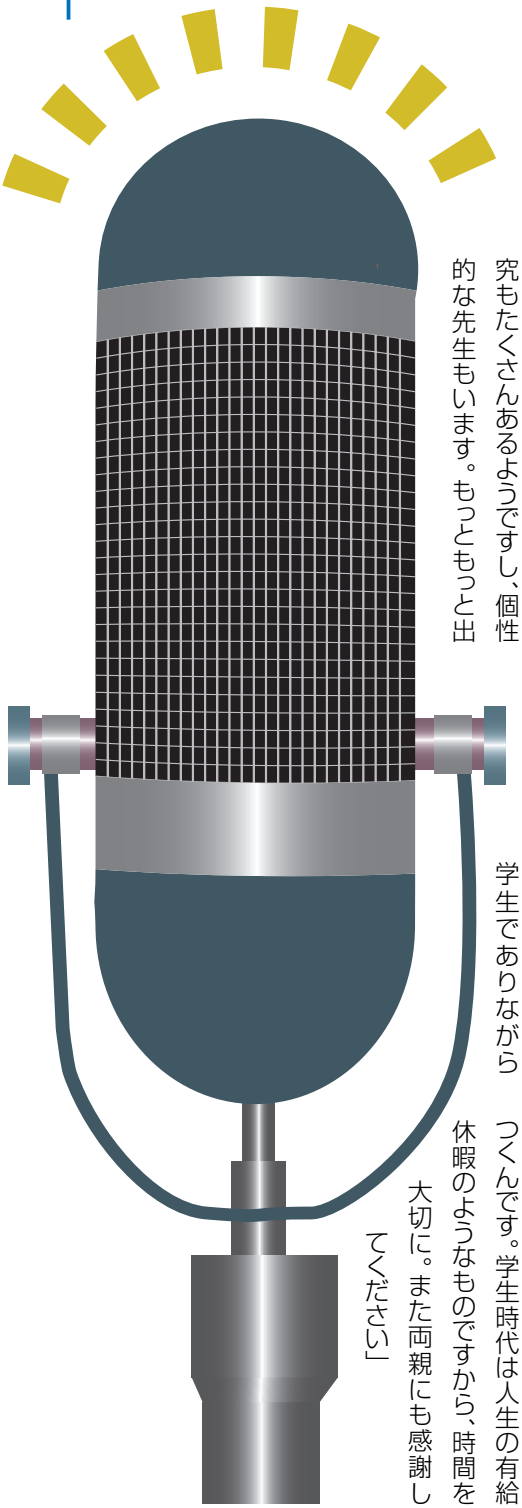
徳大のすばらしさをもっとアピール!

四国放送株式会社 ラジオ局アナウンス部主管
遠藤 彰良 えんどう あきよし



大学と放送のいい関係

「大学の先生方にはいろいろお世話になっています。出演や取材だけでなく、何かわからないことがあれば大学に聞け、って、すぐ電話して教えてもらっていますし」

と語る、四国放送テレビ『おはようとくしま』のキャスター、ラジオのパーソナリティとして大活躍の遠藤さん。マスメディアを大学アピールのためにどんどん利用してほしいそうです。

「以前に薬用植物園の一般開放の取材をした時に、高石喜久教授(薬学部)が自らお客さんを案内、説明されている姿を見てすばらしいと思いました。また『おはようとくしま』では仙波光明教授(総合科学部)の『阿波弁講座』が好評です。大学は今、地域に根ざして社会に貢献し、信頼感・親近感を得ていますよね。すごい研究もたくさんあるようですし、個性的な先生もいます。もっともっと出て徳大を紹介してほしいですね。私たちも優秀な人材が徳島に残ってくれるようによろこんで協力します」

大学と社会のいい経験

大学時代(青山学院)を東京で過ごした遠藤さんは、落語研究会に籍を置き、会長(部長)もつとめました。巡業と称して全国の老人ホームを回った経験は現在の仕事にも生かされています。またテレビのバラエティ番組などに出演したことがあり、放送局に入ろうと決意。そのために夜間は東京アナウンス・アカデミーに通って勉強しました。

「卒業の年には四国放送でアナウンサーの採用がなかったので、新卒として試験をうけるためにわざと単位を残して留年しました。その間、アルバイトをしていた出版社の社長に勧められて正社員になってしまい、学生でありながら社会人の生活をしていたんですよ。アナウンサーになりたいという希望を知った社長は、アナウンサー試験はすべて有給休暇という条件を出してくれました。社長は合格しないと思っていたのでしょう。ははは……。」

卒業後は希望どおり四国放送に入社。Uターンした理由は、

「ラジオで阿波弁を気軽にしゃべりたかった」

のだそうです。そんな人なつっこい遠藤さんのキャラクターは、15年前からレギュラーとなった『おはようとくしま』でいかんなく発揮されています。おなじみ月曜日の町角からの生中継に取材で同行させていただきましたが、道行く人々が遠くからでも手を振ってくれました。

「学生の皆さんは、自分の道を信じて悔いのない学生時代を過ごしてください。誰もが卒業してから、あんなすばらしい時間はなかったと気がつくんです。学生時代は人生の有給休暇のようなものですから、時間を大切に。また両親にも感謝してください」

四国放送のHP　http://www.jrt.co.jp/